

メンバーズ インタビュー

組合員紹介 NO.24



(株)FOREST CYCLE

未利用の森林資源を活用し、木質ペレットとチップを生産。
森と暮らしをつなぎ、資源循環を促すハブ工場の役割を担う。



どんな事業をされていますか？

当社の親会社である(株)富士総業は、2011年より木質ペレットを生産していたが、未利用材受け入れの需要が高まる中で、生産能力が限界に達していたため、(株)FOREST CYCLEを設立した。当社では、生産量の増大と生産性の向上を両立した新工場を本年7月より稼働開始し、地域の未利用資源を活用した木質ペレットと切削チップを生産している。

当社で生産する木質ペレットは、地域の工場や農業法人、宿泊施設、高齢者介護施設などに販売して地産地消を促進している。県内で唯一の木質ペレット工場であることから、県内はもとより東京、神奈川、愛知にも出荷している。一方、切削チップはパーティクルボードや製紙の原料に使われている。ペレットの生産量には物理的な限界があるので、ペレットに回すことができない原料を切削チップ用に使うことで、継続して原料を受け入れることができ、未利用資源の活用を進めるとともに、工場全体の生産性も高めている。



原木を粉碎するチッパー



チップの乾燥機とおが粉サイロ



低質木や広葉樹の受け入れに幅広く対応

事業の特長や強みは何ですか？

木質ペレットの原料として、建築や土木用材に向かない低質木や切り捨てされる間伐材、端コロ(短い材、太い材)など、これまで未利用だったものが受け入れできる。また、針葉樹だけでなく、雑木として利用されない広葉樹も切削チップ用に使えるため、枝葉以外の木材を余すことなく活用できることが強みである。

工場は原料の調達先である静東森林経営協同組合の原木センターと熱源温水の供給元である森の金太郎発電所に隣接し、切削チップの大手販売先も付近にあり、地の利を得ている。また、地域産ペレットは輸送時にCO₂を多く排出する輸入ペレットとは違い、環境負荷が少ないというメリットがある。

未利用の森林資源を活用するという事業目的を達成するためには、原料の仕入れ先、販売先、工場の三者がwin-winでつながることが必要。他社にとってはそれが参入障壁となるが、当社は地域とのつながりの中で、それができていることも強みといえる。

代表的な製品、サービス、設備などは？

木質ペレットと切削チップが当社の製品となる。国産ペレットの自給率は3%以下であり、輸入品が多くを占めている状況が続いているが、環境負荷軽減や地域経済の循環の面から国産の比率を高めることに貢献したい。工場の設備的な特長として、エネルギー効率の良さがあげられる。工場内の熱源棟では、木質ペレットを燃料にしてガスエンジン3基を発電させ、発電時に発生するお湯を熱源としてペレット原料の乾燥に用いている。エネルギー効率は、通常のバイオマス発電では熱利用をしていないので2割程度だが、このシステムでは電気と熱を両方使うので、8割を達成している。また、製造工程の自動化による省人化を図り製造コストを削減している。

今後の展望をお聞かせください。

小山村は森林資源が豊富な一方、これまで低質木や雑木を活用しきれていたが、当工場の稼働により、地域の森林資源を無駄なく活用し、循環を促していくことを目指す。稼働初年度は、原料の受け入れ量を年間2万トンと見込んでいるが、原料の受け入れ範囲を伊豆地域や隣接する神奈川県にも広げ、3年後には5万トンとなるよう計画している。

すでに流通している原料を他社と取り合うのではなく、当工場ができたことで、今まで未利用となっていた森林資源が山から出てくるようなプラス効果を生み出したい。幅広く原料の受け入れが可能であるため、ぜひ、当工場へ原料搬入の相談していただきたい。今後も事業を通じて山と暮らしをつなぎ、地域の木材循環を促すハブ工場としての役割を担っていきたい。



木質ガスを生成するガス化発電機



地域を起点に
資源循環の展望を語る
込山正一郎 代表取締役

取材日：令和7年11月19日



地域内で導入されているペレットボイラー

御殿場木材協同組合
株式会社 FOREST CYCLE

代表取締役社長 込山正一郎

静岡県駿東郡小山村上野1042番地の1

TEL. 0550-70-5670 FAX. 0550-70-5671

Mail : mail@fujij353.co.jp

会社設立：2022年6月

事業内容：木質ペレット製造、切削チップ製造

従業員数：1人

発行：静岡県木材協同組合連合会